

報 民 静 神

紙芝居で交通ルール学ぶ

県立 足柄高 放送部が読み聞かせ

松田署

南足柄市千津島の市一、県立足柄高校放送部、福沢学童保育所で7部(小川日菜子部長)



部員らは紙芝居を通して、児童らに交通ルールの大切さを教えた

による非行防止・交通安全教室が開かれた。同保育所に通う小学1〜5年生の児童約40人に対して、紙芝居による読み聞かせを通じて交通ルールの大切さを教えた。

同保育所を訪問したのは小川部長をはじめ男女5人。部員らは役割を分担し、児童の興味を引きつけるよう抑揚のある、よく通った声で紙芝居を読み進めた。

ただストーリーを読むのではなく、ときには横断歩道を渡る、路肩に停車中の車を追い抜く場面などを強調して示し、どんなことに気をつけなければなら

ないかをクイズ形式で出題。児童らは日常の身近な場所に潜む危険を考え、交通安全に対する意識を深めた。

最後に児童らは、「きまりはだれのためにあるの?」と書かれた評語を部員と一緒に音読。高校生たちは決まりやルールを守る意味を伝え、「相手やみんなのことを考えられる大人になってね」と呼びかけた。

紙芝居を見た男子児童は、「交通ルールについて分からないことがあったけど、お兄さんとお姉さんが分かりやすく教えてくれた。面白かったです」と、楽しそうに話した。

同部では少年少女の非行防止を目的に、松田署(伊藤正道署長)に協力して4年前から同教室を開始。夏休み期間を利用して、高校が

ある南足柄市内の学童保育所を回っている。

今年はずでに和田、岩原、みなみ、岡本を回っており、この日の福沢で締めくくった。

小川部長は、「夏休み前は忙しく、あまり練習できなかったが、紙芝居を聞いて笑ってくれるなどの反応がうれしかった。内容が伝わり、交通ルールを守ってくださるようになってくれたらいいな」と話した。

また、学童保育所を回っている中で児童から、足柄高校生徒の交通マナーの悪さを指摘されたことを振り返り、「小学生は私たちを見ています。(手本になれるよう)見られていることを意識しなければいけないと感じた」と、えりをただし

同署では「年齢が近い高校生の方が、われわれより話を伝えやすい。学童保育所の評価も高いので、これからもずっとお願いしたい」と、今後の活動に期待を寄せた。